

秀 賞

「弁当の日」が教えてくれたこと

秋田県大仙市立仙北中学校

二年 長 澤 みずき

今年もまた、「弁当の日」がやってきました。昨年の七月、家庭科の先生が「弁当の日の計画を立てましょう。」と話したとき、私は何をするのか、どうしたらよいかがよくわかりませんでした。ただ、料理をほとんどしたことがない私が、弁当を作るのかと未知の世界に行くような感じがして、次第に楽しみになっていきました。どんなおかずを作ろうか、どう詰めようかと胸がわくわくしてきました。

「弁当の日」とは、平成十七年当時、香川県の小学校の竹下和男校長先生が考えた取り組みです。子どもが自分で何を作るかを決めて、買い出し、調理、弁当詰め、そして片付けまで、子どもがします。その作ったお弁当を学校に持ってきて、みんなで食べるのです。仙北中学校では、秋田県で唯一、六年前から「弁当の日」を取り入れました。始めたときは慣れない弁当作りに先輩方も大変だったと聞きましたが、今では仙北中の恒例の行事として、私たち後輩に引き継がれています。先輩方のお弁当の写真を見ていると、こういうおかずを作ろう、こんな風に見た目もよく詰めよう、と、どんどん夢が膨らみます。私は、毎日母の作った料理を食べています。でも、なかなか料理を作る機会はありませんでした。実は

機会もありませんでしたが、なかなか自分で全て作ろうという気持ちもありませんでした。だから、この「弁当の日」で弁当をすることによって、毎日料理を作る楽しさや大変さを知ることができるのではないかと期待していました。

買い出しは、母と一緒にきました。母と一緒に品物を見て、私が「こういうのはどうだろう。」と母に尋ねたり、母が「いいんじゃないの。」と同意してくれたりして、母と相談しながら買い物をしていきました。

家に帰ると下ごしらえです。一回目は「三色そぼろ弁当」を作ることにしたので、ひき肉でそぼろを作りました。肉が固まっただけで、想像したそぼろとは違う状態になっていきました。すると、母が「固まらないように、菜箸三本で混ぜるのよ。」と教えてくれました。

当日はいつもより一時間早く起きました。まず、もう二色のそぼろ作りです。そしてメインのハンバーグを作りました。冷蔵庫から取り出した肉は冷たくて、手がうまく動きません。それでも何とか形を作って、焼き、味付けをしました。どきどきして味見してみると、何だか母が作るいつものハンバーグより、味がしょっぱく感じました。焼いてから味付けしたので、もう味は変えられません。お弁当にはきれいに詰められましたが、全てが成功したとは言えないででした。おまけに、昼になり弁当を開けると片よって、少しがっかりしました。

そんなとき、図書室で「弁当づくりで身につく力」という本を見つけ、あるおばあさんの「むかし嫁いでから、今までどれだけの弁当をつくってきたか知らないけど、自分がつくってもらったのはこれからはじめて」と涙を流した場面が目を奪われました。それまで私は、母に弁当を作ってもらってばかりで、

時には多い量に余してしまうこともあり、「量を少なくして。」などと注文をつけたこともあり。残すことはもったいないからだったのですが、ふり返ってみると母はショックだったかもしれません。私にたくさん食べてほしいという思いで弁当を作ったのでしょ。自分で弁当を作ること、母の大きな身にしみてわかりました。きつとおばあさんも、自分が手間をかけて作っていたからこそ、作ってくれた弁当が嬉しかったのでしょう。

私は「弁当」をすることで家族と過ごす時間が多くなることに気付きました。中学校に入学後、部活動や勉強など、小学校のときよりなんだか忙しいと感じることが多い気がします。しかし弁当を作ることで少なくとも母と一緒に台所に立っている間は話をすることができます。また、弁当の残りのおかずを朝食に出し父に味見をしてもらい、話はずみです。家族に弁当を作ることを考えることで、家族のことを考えている自分もいます。

私は「弁当の日」で弁当を作って、本当によかったことばかりです。家族との会話だけではなく、友達との会話もはずみます。また、料理も少しずつ覚えることができました。昨年は二回の「弁当の日」があり、二回目は一回目より上手になりました。弁当の身が片やらないように、固いものを入れたり、ハンバーグのソースのような水分の多いものは入れないように工夫したりもしました。少しずつ、上達していつているのがわかります。

今年の「弁当の日」ももう間近です。今回は去年より早く作ることが目標です。母のように手早く調理できるように頑張ります。いつか母の肉じゃがの味を受け継げるように、お弁当で腕を磨きたいと思っています。

作文を書くに当たって

私が「弁当の日」にテーマを決めたきっかけは、この取り組みを他の人にも知ってもらいたいと思ったからです。また、この「弁当の日」が秋田県全部で実施されているわけではないので、この作文を通してたくさんの人に「弁当の日」のことについて知ってもらえたらうれしいです。